

Coca-Cola

# 北の大地とともに

CSRレポート2017



1

豊かな**環境**を  
未来につなぐ

2

**地域**との  
絆をつなぐ

3

**連携**の輪を  
つなぐ

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

「北の大地とともに」  
変わらぬ想いを、これからもつなぐ

## TOP MESSAGE



代表取締役社長 **佐々木 康行**  
Sasaki Yasuyuki

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、北海道に生まれ、北海道の皆さまに育てられてきたごさんご企業です。私たちは、北海道の緑豊かな大地に育まれた良質な水と原材料を使い、北海道にある工場で高い品質管理の下、各種清涼飲料水を製造し、地域の皆さまに「さわやかさと潤い」をお届けするために、さまざまな事業活動を展開しています。

ごさんご企業である私たちが果たすべき役割は、事業活動を通じて、これまで以上に地域課題解決のお役に立てる活動を継続していくことだと考えます。

そのためには、社員一人ひとりが自らのやるべきことをしっかりと見定め、いきいきと働きながら、活動をしていくことが大切だと思っております。

私たち北海道コカ・コーラグループは、「北の大地とともに」を合言葉にこの素晴らしい北海道の魅力を次世代へとつないでいくため、これからも持続可能な社会の実現を目指して、力を注いでまいります。

## CONTENTS

トップメッセージ	01
----------	----

特別対談	03
------	----

次世代へつなぐ、持続可能な北海道を目指して

北海道 環境生活部長 小玉 俊宏 氏	×	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 代表取締役社長 佐々木 康行
--------------------------	---	---

2016年CSR活動ダイジェスト	05
------------------	----

CSR活動3つのテーマ	06
-------------	----

1 豊かな環境を未来につなぐ	07
----------------	----

ウォーター・ニュートラリティー／環境教育／  
北海道e-水プロジェクト／雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス ほか

2 地域との絆をつなぐ	11
-------------	----

北海道との包括連携協定／まちづくりパートナー協定／  
地域の防災パートナーとして／  
広がる防犯ネットワーク／防災・減災に向けた取り組み ほか

3 連携の輪をつなぐ	15
------------	----

キッズタウン／雪かきボランティア／動物園との連携／  
寄付型自動販売機の取り組み／地域イベントの応援 ほか

環境負荷低減への取り組み	19
--------------	----

環境理念／環境行動指針／ISO14001／  
容器リサイクル／ピークシフト自販機 ほか

環境会計について	21
----------	----

環境保全コスト／マテリアルバランス／環境効果

厳格な品質管理システム	23
-------------	----

マネジメントシステム「KORE」／  
ISO9001／お客さま対応の体制について／  
工場見学のご案内 ほか

よりよい職場づくり	25
-----------	----

コーポレート・ガバナンス／内部統制システム／  
危機管理体制／ワーク・ライフ・バランス ほか

企業プロフィール	27
----------	----

経営理念／経営指針／事業所ネットワーク／  
会社概要 ほか

外部からの評価	29
---------	----

平成28年度 北海道社会貢献賞(防災功労者)／  
第8回さっぽろ環境賞／北のブランド「金賞」／  
第三者意見

### CSR活動方針

- ・ステークホルダーからの企業評価向上を目指した取り組みを推進します。
- ・環境保全活動などのCSR活動を自発的に行う企業風土を育てます。
- ・事業活動と連動させた継続可能な社会貢献活動を推進します。

### CSRレポート編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2017」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく紹介し、ステークホルダー (利害関係者) の皆さまからご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

### [対象期間]

2016年1月1日～2016年12月31日。  
実績データは2016年、活動内容の一部は2017年も含みます。

### [対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています。  
(「グループ会社の概要」参照)



# 特別対談 次世代へとつなぐ、 持続可能な北海道を目指して

行政にしかできないこともあれば、民間企業だからできることもある。互いに役割を補完しながら次世代へとつなぐ、持続可能な北海道を目指して、当社代表取締役社長佐々木康行が包括連携協定を結ぶ、北海道の小玉俊宏環境生活部長と、「北海道e-水プロジェクト」や安全・安心などの取り組みについて、栗山町の「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」で対談しました。

## 協働のきっかけ

**小玉** イランカラフテ！「こんにちは」を意味するアイヌ語の挨拶です。今日はお招きいただきありがとうございます。また、北海道の水辺の環境保全に取り組む活動を支援する「北海道e-水プロジェクト」への長きにわたるご寄付に深く感謝申し上げます。

**佐々木** 「ジョージアサントスプレミアム」の売り上げの一部を寄付する取り組みは2008年から始め、累計1億円を突破しました。これもひとえに道民の皆さまがご愛飲くださったから、できたことです。

**小玉** このほか「北海道がん対策基金」や「ピンクリボン活動」へのご支援、一昨年に制定した「飲酒運転根絶条例」に基づく啓発など、日ごろから幅広いご協力をいただき、

本当にありがとうございます。

**佐々木** 北海道との協働の始まりは2006年の「子どもの安全を見守る運動」です。「大人だけが子どもの安全を見守ることができない」のコンセプトのもと、子どもを事故や犯罪から守る活動を北海道に政策提案し、「赤レンガ・チャレンジ事業 第一号」として採択していただきました。これが、積極的にCSR活動に取り組むきっかけとなりました。

## 「共感」をエネルギーに

**小玉** 「赤レンガ・チャレンジ事業」は、民間の資源や機能を有効に活かしていただくことで行政課題の解決を目指す取り組みです。「子どもの安全を見守る運動」は、その後さらに広がり「安全・安心ごさんこ運動」という大きな道民

運動へと発展しました。  
**佐々木** 北海道の活性化に向けて、相互に連携・協力しながら協働事業に取り組むため、2014年に北海道と「包括連携協定」を締結できたこともCSR活動を推進する上で大きな後押しになりました。  
**小玉** 考えてみれば地域課題について、行政だけで頭を悩ませるよりも解決策を持つ民間企業や市民団体の皆さまと一緒に取り組むほうが効率的です。地域課題の解決に向けた素晴らしい提案はオープンに受け付けています。

**佐々木** 地域の役に立っているという実感が持てれば、社員のモチベーションも高まり新しい活動につながっていきます。

**小玉** 私たちが今いる、「こ」雨煙別小学校「コカ・コーラ環境ハウス」は、閉校になった木造二階建て校舎



北海道環境生活部長  
小玉 俊宏氏

業・団体とタッグを組んで取り組むことが重要ではないかと考えるようになりました。大通公園の清掃活動や雪かきボランティア、職業体験イベント「キッズタウン」などは、たくさん企業や団体と協働したお陰で、大きな広がりがあり、継続性も生まれています。

**小玉** 社会的な課題やニーズを「見える化」し、関心のある企業や市町村、研究者など、産学官民が協働するためのテーブルを用意する

のが我々行政の役割でしょう。私は「課題と資源の棚卸し作業と呼んでいます。知恵や資源をお互いに持ち寄って組み合わせれば、解決できる地域課題も少なくないはずです。

**佐々木** これからも持続可能な北海道を目指し、我々にできる活動を続けていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございます。（栗山町「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」にて収録）



北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
代表取締役社長  
佐々木 康行

## 安全・安心な まちづくりのために

**佐々木** 昨年末は防災功労者として北海道知事より「北海道社会貢献賞」をいただきまして、大変光栄に思っています。

**小玉** 昨年8月には台風災害のあった地域へ飲料水の提供にご尽力いただきました。災害時にいち早く給水や輸送活動に動いていただけことは非常に助かりました。自動販売機から無料で飲み物が提供されるフリーバンドや、電光掲示板での災害情報の配信も頼りになりました。

**佐々木** 災害対応型の自動販売機は全道に約1,300台。情報発信や、飲料の無償提供など緊急対応可能なツールとして活躍でき、うれしく思っています。

## 知恵と資源を持ち寄って

**小玉** 2020年にアイヌ文化の

復興等のナショナルセンターである民族共生象徴空間が白老町に整備されます。多くの方に来ていただくため、国や北海道は魅力あるアイヌ文化のPRに力を入れています。また、北海道の素晴らしさを伝える取り組みとして外国人観光客に対する事業をさらに進めていく計画です。

**佐々木** とてもタイムリーなお話だと思いました。実は、道内の外国人旅行者が増えているとのこと、自動販売機の多言語表示を行うほか、電光掲示板のメッセージを英語で配信する取り組みを開始したところです。

**小玉** なるほど、自動販売機はまだ多彩に活用できそうですね。  
**佐々木** 我々はお客さまを消費者ではなく生活者と捉えています。商品の売上に限定せず、より広い発想でお役に立ちたいと考えています。

**小玉** 行政サービスも同じです。サービスを提供する側、受ける側と線を引くのではなく、同じ目線に立つて、よりよいまちづくりを一緒に考える姿勢こそが大切だと思います。

**佐々木** CSR活動も自社だけの取り組みとせず、さまざまな企





# CSR活動 3つのテーマ

「もっとつながる北海道」を合言葉にしたCSR活動。  
3つのテーマに沿って紹介します。

豊かな**環境**を  
未来につなぐ

製品づくりに欠かせない、  
きれいな水を守るため、  
北海道の豊かな自然を、  
次の世代へつなげます。

**地域**との  
絆をつなぐ

北海道の行政機関や地域と  
手を取り合い、  
活気あふれるまちづくりを  
推進します。

**連携**の輪を  
つなぐ

地域とのふれあいを大切に、  
さまざまな企業や団体と  
連携の輪を広げます。

# 2016年CSR活動 ダイジェスト

北海道コカ・コーラボトリングは「北の大地とともに」をコンセプトに、  
持続可能な社会の実現を目指した活動を幅広く実施しています。  
「もっとつながる北海道」を合言葉に「豊かな環境を未来につなぐ」  
「地域との絆をつなぐ」「連携の輪をつなぐ」の3つのテーマに沿って、  
責任あるごさんご企業としての役割を果たしてきました。



北海道大学大学院環境科学院と  
「2016年第二回山のがっこう」を開催

「コカ・コーラ『森に学ぼう』プロジェクト  
～わくわく体験ランド北海道in白旗山～」を開催

旭山動物園 循環型農園  
「つながる輪『いのち』」で収穫祭

苫小牧市、帯広市、函館市にて  
「キッズタウン」を開催

北海道警察と協働で  
飲酒運転根絶に向けた取り組み開始

児童参加による自動販売機への防犯ポスター  
交付・掲示式を実施(小樽市、小樽警察署)

北海道防災総合訓練に参加(猿払村、湧別町)



YOSAKOIソーラン祭り組織委員会へ  
「コカ・コーラ」「コカ・コーラゼロ」  
YOSAKOIソーラン祭り応援デザイン缶の  
寄付金を贈呈

北海道開発局と連携し、「おしらせ道ねっと」  
での英語による情報発信をスタート

釧路市にて「キッズタウン」を開催  
キッズタウン参加者 累計10,000人達成!

「はこだて・エコフェスタ2016」に参加



札幌市豊平区の  
「とよひらまちづくりパートナー制度」に登録

「北海道e-水プロジェクト2016」  
キックオフミーティングを開催

旭山動物園を通じて子どもたちの未来を応援する  
「あさひやま"もっと夢"基金」に寄付金を贈呈

札幌市円山動物園へ  
「ミニッツメイド Qoo どうぶつデザイン」の  
寄付金を贈呈

知床の環境保全活動に関する  
寄付金を贈呈(斜里町、羅臼町)

旭山動物園にて循環型農園  
「つながる輪『いのち』」農園開き



「道の駅 みそぎの郷きこない」にて  
「おしらせ道ねっと」運用開始  
(木古内町、函館開発建設部)

北海道コカ・コーラグループ全社大会で  
CSR活動に取り組んだ社員を表彰

さっぽろ雪まつりの大雪像を  
制作している皆さんに飲料を提供

さっぽろ雪まつり、旭川冬まつり、  
おびひろ氷まつりなど冬のお祭りを応援

雪かきボランティアに参加  
(三笠市、倶知安町、札幌市清田区)

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

3月

2月

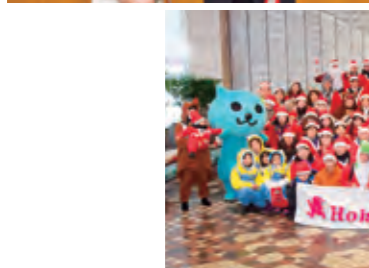
1月

クリスマスに向けて  
福祉施設へ製品のプレゼントを実施

北海道社会貢献賞(防災功労者)を受賞

札幌市電  
「コカ・コーラ クリスマス電車」を運行

道内各地のサンタランに参加



一般国道5号「西大沼チェーン着脱場」にて  
道路交通情報・地域情報の発信を開始  
(七飯町、函館開発建設部)

札幌市消防局より「暮らしの火の用心協力隊」として  
証の交付を受託

北海道対がん協会と協働で「コカ・コーラ工場見学×  
無料乳がん検診バスツアー」を開催

「第7回 北海道e-水フォーラム」を開催  
「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン  
寄付額累計1億円突破

旭川市にて「キッズタウン」を開催

小樽市の「小樽ファンが支えるふるさとまちづくり資金  
基金」へ寄付金を贈呈



防災ステーションにて  
道路交通情報・地域情報の配信開始  
(清水町・広尾町、帯広開発建設部)

「環境広場さっぽろ2016」に参加

「コカ・コーラ環境フォーラム」を開催

コカ・コーラスペシャルマッチ  
「北海道日本ハムファイターズV S  
福岡ソフトバンクホークス」を開催

未来のアスリートを育てる  
「JOCオリンピック支援自動販売機」  
運用スタート



北海道大学大学院環境科学院と  
「2016年第一回山のがっこう」を開催

YOSAKOIソーラン祭りに  
「コカ・コーラ札幌国際大会」が参加

2016年札幌大通公園清掃活動がスタート



釧路市へ  
「釧路スケート応援自動販売機」の寄付金を贈呈

北海道対がん協会へ  
「ピンクリボン活動支援自動販売機」の寄付金を贈呈

さっぽろ雪まつり実行委員会へ  
「コカ・コーラ」「コカ・コーラゼロ」  
さっぽろ雪まつり応援デザイン缶の寄付金を贈呈

「道の駅 しかべ間歌泉公園」にて  
「おしらせ道ねっと」運用開始(鹿部町、函館開発建設部)

「道南いさりび鉄道」における地域振興活動を開始  
(北海道渡島総合振興局、道南いさりび鉄道地域応援隊)





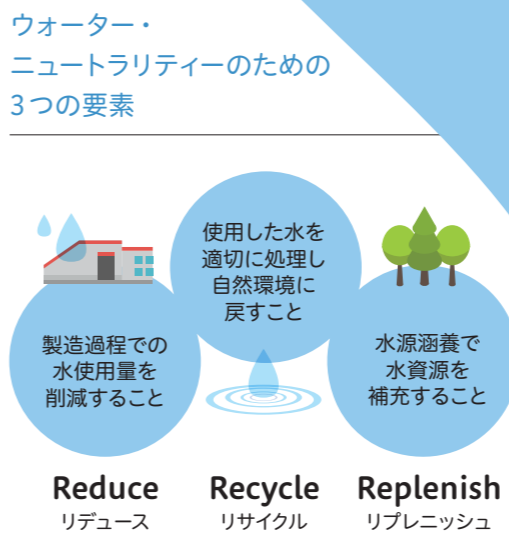
# 1 環境を豊かに未来につなぐ

## 北海道のきれいな水を、次世代につないでいくために。

すべてのいのちにとって、水はかけがえのない存在。  
 私たちの製品づくりにも良質な水が欠かせません。  
 北海道のきれいな水を未来へとつないでいくことは、私たちに課せられた使命でもあります。

使った量と同量の水を還元  
 ウォーター・ニュートラリティーを  
 ニュートラリティーを目指して

当社の製品は、北海道の豊かな大地に育まれた良質な地下水を使  
 った量と同量の水を還元しています。「ウォーター・ニュートラリティー (Water  
 Neutrality)」とは、こうした製品づくりの過程で使った量  
 と同じ量の水を、自然に還元するという考えです。  
 コカ・コーラシステムでは「2020年までに水資源の持続可能性  
 におけるグローバルリーダーになる」という世界共通の目標を掲げ、  
 製造過程における水使用量削減「リデュース (Reduce)」、製造  
 過程で使用する水の循環「リサイクル (Recycle)」、地域の水源  
 保護「リプレニッシュ (Replenish)」の三つの要素でウォー  
 ター・ニュートラリティーの達成を目指しています。  
 当社の具体的な取り組みとしては、札幌工場で使用している地下  
 水の水源である白旗山(札幌市清田区)の森づくりから、自然にや  
 さしい排水処理、製造工程での節水、子どもたちへの環境教育など、  
 さまざまです。  
 工場の中から地域の自然まで活  
 動の輪が広がっています。



ウォーター・ニュートラリティーのための3つの要素



白旗山における植樹活動



### ココ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト

体験型の環境教育プログラムを實踐  
 コカ・コーラシステムでは、植樹や自然体  
 験を通じて子どもたちに「森」と「水」の大切  
 さを学んでもらうことを目的に、2006年  
 から「ココ・コーラ『森に学ぼう』プロジェ  
 クト」を実施しています。

当社では2011年に札幌市と締結し  
 た「環境事業に関する協定」に基づき、札幌  
 工場を使う地下水の水源である白旗山  
 で、札幌市森林組合や市民団体と連携した  
 森づくりをスタート。「ココ・コーラ『森に学  
 ぼう』プロジェクト」を「わくわく体験  
 ランド北海道 in 白旗山」と  
 題し、子どもたちとの植樹、  
 湧水の観察、間伐材を用い  
 た木工クラフト体験など  
 を毎年行っています。  
 2016年は約30  
 名の子どもたちと一緒に  
 150本のミズナラ  
 (ドングリ)の苗木を植  
 えました。



「山のがっこう」授業風景

### 「山のがっこう」

2013年、北海道における環境保全・地  
 域社会の発展に寄与することを目的に、北  
 海道大学大学院環境科学院と連携・協力協  
 定を締結し、白旗山をはじめとする北海  
 道の自然を、教育・研究を通じ次世代へつな  
 げるという目的で開校したのが「山のがっ  
 こう」です。

小学生から高校生までを対象に白旗山  
 のフィールドワークや、水の循環について科  
 学的な側面から学ぶプログラムを北海道大  
 学大学院の学生が中心となって実施してい  
 ます。実施にあたっては地域の関係者と連  
 携しながら産学官の協働を実現。伝える側  
 の大学院生、受け取る側の子どもたち、双  
 方の学びを目指しています。

2016年は小学生を対象に山のろ過  
 機能や植樹の意味を、高校生を対象に安定  
 同位体の比較や地下水の仕組みなど、対  
 年齢に合った水環境の授  
 業を行いました。

### 水の使用量を大幅に削減 エレクトロン・ビーム 殺菌

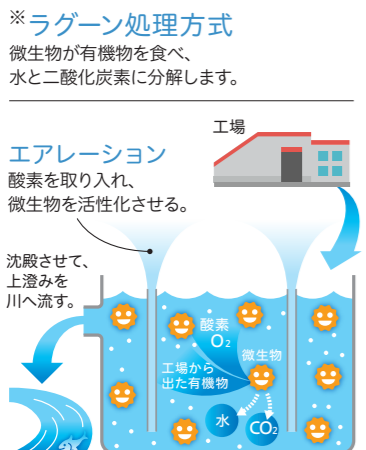
2012年より、PETボトル製品の製  
 造ラインで、エレクトロン・ビーム(電子線)  
 殺菌方式を採用しています。薬剤でのPET  
 ボトル洗浄に比  
 べ、電子線を使っ  
 て殺菌すること  
 で、ボトル洗浄水  
 の使用量を大幅  
 に節水すること  
 に成功しました。



エレクトロン・ビーム発生装置

### 自然にやさしい排水処理 ラグーン処理方式

札幌工場の排水処理は、微生物の自己淨  
 化サイクルを利用し、余剰汚泥の発生量を抑  
 える「ラグーン処理方式」(※)です。国の排水  
 基準を遵守するのはもちろん、その基準を上  
 回る独自の基準を適用しています。



### 北海道の良質な資源と 大地の恵みをお届けします

札幌工  
 場で製造し  
 ている製品  
 はすべて、  
 白旗山を  
 水源とする  
 地下水でつ  
 くらされてい  
 ます。山に  
 降り注いだ雨や雪が大地に浸  
 透し、長い年月をかけてろ過され  
 ることで不純物がとりのぞかれ  
 た水。それをPETボトルに詰  
 めたのが良質なナチュラルミネ  
 ラルウォーター「い・ろ・は・す」  
 です。



また、道内で製造・販売してい  
 る「い・ろ・は・す」の諸製品には、  
 北海道産の砂糖や乳、生クリーム  
 を使用するなど、地産地消を推進  
 しています。



左から「い・ろ・は・す」555ml、  
 北海道限定の「い・ろ・は・す ハスカップ」  
 555mlと  
 「ジョージア ミルクコーヒー」247g





知床応援自動販売機

北海道が誇る貴重な自然を守りたい  
**知床世界自然遺産への寄付**  
 2005年、知床が世界自然遺産に登録されたことをきっかけに、希少な動植物の生息地となっている知床の環境保全活動に役立ててもらおうことを目的として、「知床応援自動販売機」を展開しています。斜里町では2006年から、羅臼町では2007年から取り組みを開始し、2016年は合わせて約110万円を寄付し、これまでに累計1,223万円が両町の知床世界自然遺産における環境保全活動に役立てられています。



2016年度「北海道e-水プロジェクト」活動の様子

1  
**環境**を  
 豊かな未来につなぐ



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

廃校を宿泊型体験施設に再生  
**雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス**  
 栗山町にある「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団と栗山町が協力し、廃校となっていた雨煙別小学校の校舎を宿泊型体験施設として再生したものです。夕張川やハサンベツの里山など栗山町の自然とふれあう、さまざまな体験プログラムを用意しており、子どもたちの体験学習などに利用されています。また、毎年夏休みには、環境ボランティア活動に携わる子どもたちが全国から集まって交流する「コカ・コーラ環境フォーラム」が開催されるほか、さまざまな環境イベントに活用されています。

「北海道e-水プロジェクト」の仕組み

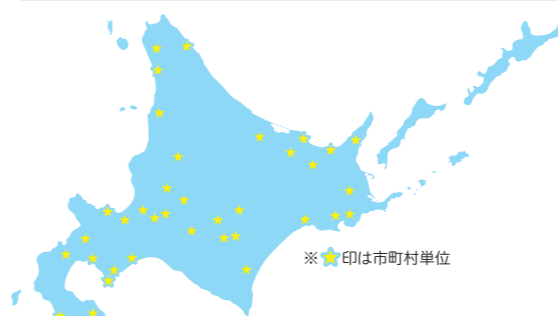


2016年度 北海道e-水フォーラム (寄付総額累計1億円突破)

水の循環を楽しく学べる  
**環境出張授業 「水の授業」**  
 次世代の、地球環境保全を担う子どもたちに水資源の大切さについて楽しく学んでもらうため、環境出張授業「水の授業」を行っています。これまで道内各地の環境イベントで開催したほか、札幌市内の学校などでも実施し、2016年は約750人が参加しました。

環境への取り組みを紹介  
**環境イベントへの参加**  
 当社の環境への取り組みを多くの方に知っていただくため、環境イベントへ積極的に参加しています。道内最大級の環境イベント「環境広場さっぽろ」をはじめ、札幌市青少年科学館「環境科学展」(はこだてエコフェスタ)など、各地の催しに出展。パネル展示や、環境クイズなど参加型の企画も行っています。

「北海道e-水プロジェクト」歴代支援団体所在地



7年間で延べ74団体を支援し、活動の輪が全道一円に拡大しています。

寄付総額累計1億円  
 北海道の環境を守るあなたの1本  
**北海道e-水プロジェクト**  
 2010年から北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で行っている「北海道e-水プロジェクト」。北海道の豊かな水資源と美しい自然環境を守り、次世代へ引き継いでいくことを目的としています。この事業は、当社が北海道限定で販売する「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインの一部を同財団に寄付。同財団が北海道の水辺の環境保全活動に取り組み団体を選定し、活動費を支援する仕組みです。これまで7年間で延べ74団体を助成し、「北海道e-水プロジェクト」の前身となる、2008年から開始された北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を合わせると、9年間で1億円を突破しました。2016年は8団体を支援し、4月には助成団体を集めたキックオフミーティングを開催。11月には活動内容を広く発信する場として「北海道e-水フォーラム」を開催し、2016年度の寄付額として約880万円を寄付しました。全道の環境保全に取り組み団体語り合い、交流するきっかけづくりになっているほか、全道各地で行われている保全活動には当社社員も参加して、地域の皆さまと絆を深めています。地域の水辺の環境を守るお手伝いがしたい。「北海道e-水プロジェクト」は、こうした当社の思いを象徴する取り組みになっています。

社員の声 VOICE

当社だからこそできる  
 環境授業を目指して



広報・CSR推進部 広報・CSR推進課 藤井 朋子

当社の工場は札幌市清田区にあり、大地が育んだ良質な地下水を利用して製品を製造しています。だからこそ、その「水」を育む「森」を守ることが私たちの責務だと考えており、「自然への恩返し」の気持ちで、水資源保全活動に取り組んでいます。私たちが実施している「水の授業」は、水の飲み比べや環境クイズなどを通じて、身近な「水」について興味を持ってもらい、さらに、当社の「水源を守り、水を大切に使い、しっかりと浄化して自然に返す」というウォーター・ニュートラリティーの活動を紹介することで、生活に使用できる「水」の希少さ、「森」と「水」のつながりを伝えていきます。この活動を通じて、次世代へ環境保全の輪を広げていくことを目指し、これからも継続して活動していきます。

「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン



1993年発売のロングセラー商品。乳や砂糖は北海道産を使用し、パッケージには大沼、釧路湿原、大雪山、十勝平野と北海道の雄大な風景を採用しています。



# 2 地域との絆をつなぐ



「花いっぱいプロジェクト」への参加（札幌市厚別区）

## 北海道で生まれ育った どさんに企業としてできること。

まちがあり、人がいて、私たちの事業活動は成り立ちます。いつも近くにいる地元企業として、地域課題解決のお手伝いを、私たちにできることから一つひとつ実行していきます。

### 持続可能な北海道を目指して 北海道との包括連携協定を軸に、 地域とともに

当社はかねてより、北海道と協働で安全・安心なまちづくりや環境保全などに取り組んできましたが、2014年には、さらなる活性化に向け、北海道と相互に連携・協力しながら協働事業に取り組むため、「安全・安心な地域づくり」「観光振興」「食や健康」「環境保全・環境教育」「固有文化・歴史の伝承」など、6項目で包括連携協定を締結しました。

以来、この協定に基づき、どさんこ企業として地域との絆を深めながら取り組みの幅をさらに広げ、住みよい北海道を目指し、さまざまな活動を推進しています。

こうした活動のきっかけになったのが、「子どもの安全を見守る運動」です。「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトのもと、2006年に、官民一体となって「子どもの安全を見守る運動」を進めようとして北海道へ政策提案。「赤レンガ・チャレンジ事業」の第1号として採択され、その後「安全・安心どさんこ運動」として大きく発展しました。当社では事業所と車両約900台にポスターやステッカーを掲示。社員一人ひとりが日々の業務の中で、子どもたちの安全を見守る活動を始めました。



北海道との包括連携協定締結式



自動販売機の電光掲示板を使った道政情報の配信



「子どもの安全を見守る運動」のステッカー／ステッカー掲示車両

確かな連携体制を構築

### まちづくり パートナー協定

2009年、当社は札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結しました。この協定に基づき、市内全区と、それぞれの特色を生かしたまちづくり活動を推進しています。

あわせて、2008年には旭川市、2009年には函館市、2010年には帯広市や釧路市とそれぞれまちづくりに関する協力協定を締結するとともに、2014年には広尾町と「サンタクロースの夢を育むまちづくりパートナー協定」を結び、地域協働の輪を大きく広げています。



まちづくりパートナー制度（札幌市豊平区）

さらなる安全・安心に向けて

### 地域の 防災パートナーとして

安全・安心なまちづくりを目指し、2006年、北海道と災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定を締結しました。北海道に生産機能を持ち、全道をカバーする物流網を活用した災害時の飲料供給や、平常時の防災意識向上に取り組んでいます。

また、この協定に基づき、電光掲示板付き災害対応型自動販売機を活用した市町村との取り組みを展開。2012年には道内全179市町村との間に安全・安心のネットワークを広げることができました。災害時には電光掲示板から災害情報を発信するほか、各自治体の判断でフリーバンド（※）を行います。なお、平常時には、地域情報を流すなど自治体の広報ツールとしても活用されています。2016年には猿払村および湧別町で開催された北海道防災総合訓練をはじめ、道内各地の防災訓練にも積極的に参加。避難

所への飲料水輸送訓練や、フリーバンドの実演を行いました。

このほか、東日本大震災以降、津波に対する防災意識の高まりを受け、釧路市など沿岸部の市町村を中心に自動販売機（海抜表示）の取り付けを展開しています。また、自動販売機内部に災害警報機能を組み込むことで、緊急時には警報を音声でお知らせする取り組みを行っており、これまで釧路市内に6台設置しています。

さらに、札幌市とは2014年に「震災時の消火用水等の供給協力に関する協定」を締結し、災害発生時、大規模な火災を消火するための消火用水の提供や、中長期の消火活動に必要な飲料水の備蓄に協力しています。

一方、札幌市消防局では地域の防災力強化を図るため、火災予防広報活動に協力する企業・団体を「暮らしの火の用心協力隊」として登録する取り組みを2016年度よりスタート。当社はこの第1号として証の交付を受けました。

※フリーバンド／災害時に自動販売機内の飲料が無償で提供される機能のこと



「暮らしの火の用心協力隊」証の交付式



自動販売機の高板表示

### 社員の声 VOICE

台風被害で実感した  
備えと連携の重要性



営業統括本部 第二本部  
営業四部 帯広販売課長  
東 裕一

昨年、十勝管内を襲った台風は、橋の崩落、堤防の決壊、道路の寸断など大きな被害をもたらしました。当課では防災協力協定に基づき、避難住民の方々への対応を最優先すべく、各自自治体へ災害避難所開設確認、災害対応型自動販売機の活用状況確認、災害救援物資として飲料水の配送を実施しました。また、可能な限り多くの避難者を支援するため、北海道とも連携をはかり、対応しました。

老人福祉施設や病院など、地域によっては断水が長時間にわたる継続し、飲料水の確保に窮しており、避難所だけではなく各施設への早急な救援物資配送の必要性なども、今回の経験から学びました。

これからの自然災害や不測の事態に備えた取り組みを各自自治体と連携し、安全で安心なまちづくりを目指していきます。



## 2 地域との絆をつなぐ

### 広げたい防犯ネットワーク 北海道警察と取り組み、安全・安心な地域づくり

2007年、北海道札幌方面中央警察署と協働し、電光掲示板付き自動販売機で防犯や事件情報を配信する「防犯ほっとインフォメーション」の運用を開始。以後、全道全ての警察署と「電光掲示板能付自動販売機による協働事業に関する協定」を締結し、連携を拡大させています。

また、道内各地の警察署と協働で、地域の子どもたちが描いた防犯ポスターを自動販売機に掲示する取り組みも行っています。子どもたちが一生懸命に描いたポスターは、注意喚起に威力を発揮。地域の防犯意識向上に役立っています。

さらに、近年、悪質な飲酒運転による事故が相次ぎ、「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」が制定されたことを受け、2016年からは全道各地の警察署と協働して飲酒運転の根絶を訴える活動を開始。繁華街や駐車場など人目に触れやすい場所の自動販売機約3,000台で、飲酒運転防止のための啓発にポスターを掲示しています。これらの取り組みを通じ、安全・安心な地域づくりを進めています。



児童参加による自動販売機への防犯ポスター交付・掲式（小樽市）



飲酒運転根絶ポスター掲式（札幌市厚別区）



飲酒運転根絶ポスター掲式（帯広警察署）



全道で掲された飲酒運転根絶ポスター

### 道路の保全と安全確保に貢献 防災・減災に向けて、北海道開発局との連携

2006年、活力ある地域づくりを目標として北海道開発局と「協働事業による包括協定」を締結。これに基づき、北海道開発局、市町村および当社の三者協働により、全道各地の道の駅に電光掲示板付き災害対応型自動販売機で情報を配信する「おしらせ道ねっと」を展開してきました。電光掲示板では市町村からの情報発信が可能で、平常時

に地域情報を、緊急時に災害情報や道路情報を発信するほか、災害時にはフリーペンドも発行します。

現在は道の駅を中心に約130台の自動販売機で「おしらせ道ねっと」を運用しています。近年、北海道をレンタカーで周遊する外国人観光客が増えていることから、2016年より電光掲示板を活用し、通行止めなどの交通規制を英語でお知らせする情報発信を始めました。

2014年からは、全道10の開発建設部と「道路異常の情報共有、および道路緊急ダイヤルの啓発活動に関する協定」を締結し、当社社員が道路の破損などを発見した際は速やかに通報するとともに、当社車両（約900台）に道路緊急ダイヤル「#9910」ステッカーを掲示して啓発に協力しています。



道路緊急ダイヤル「#9910」のステッカー



「おしらせ道ねっと」英語表記



チェーン着脱場における協働事業開始（七飯町）



防災ステーションにおける協働事業開始（広尾町）



イランカラテデザイン自動販売機

新たな取り組みとして、道路利用者への安全・安心の提供や利便性の増進に加え、地域防災意識の向上、緊急時の防災拠点機能などをより一層高めることを目的に、高規格道路のパーキングエリアや国道の防災ステーション、パーキングエリア、チェーンの着脱場などに電光掲示板付き災害対応型自動販売機を設置する取り組みを進めています。なお、上浦幌パーキングエリアなどでは、北海道が推進する「イランカラテ」キャンペーンを応援するため、キャンペーンロゴマークを施した自動販売機の設置を進めています。

### 心を支える取り組み 犯罪被害者への支援活動

北海道、北海道警察、公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターと連携し、道内の犯罪被害者および家族または遺族に対する支援事業ならびに犯罪が減少する安全・安心なまちづくりに向けた活動を行っています。



街頭啓発活動に参加

2010年より道内の警察署に設置している自動販売機の売り上げの一部を犯罪被害者支援活動資金として同センターに寄付しているほか、毎年11月の犯罪被害者週間には街頭啓発活動にも参加しています。

### 子どもたちの安全を守りたい 通学見守りボランティア

当社の釧路事業所では、2010年から社員が交代で小学校の通学路に立ち、声かけ・見守り活動を続けています。この取り組みが地域の防犯に大きく貢献したとして、2014年10月には地域の小学校から感謝状をいただきました。



通学見守りボランティア

### パートナーの声 VOICE

企業との協働による取り組みで、目指す社会



札幌方面厚別警察署 交通第一課企画係 巡査部長 寺岡 広実さん

市民の皆さまにとって身近な脅威とはなんでしょう。交通事故はいつ誰が当事者になるかわからない最も身近で、かつ、命に関わる危険な脅威ではないでしょうか。その脅威に立ち向かうためには、社会全体が問題意識をもって交通安全活動に参加していく必要があります。ある心理学者は「人を動かす最善の法は、相手の心の中に強い欲求を起させること」と述べています。

飲酒運転という問題に対し、さまざまなCSR活動を実施してきた御社と厚別警察署が連携し、自動販売機を活用した広報啓発、交通安全イベントの共催など、それぞれの得意分野を活かした皆さまの目に訴える取り組みができました。

魅力ある協働の取り組みで市民と企業をつなぐ架け橋となり、安心で安全に暮らせる社会を目指したいと思っています。



# 3 連携の輪をつなぐ



札幌大通公園  
清掃活動



「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」  
寄付金贈呈式(札幌市円山動物園)

「キッズタウン」での  
間伐体験

## 地域の仲間と手を取り合って 住みよい北海道をつくりたい。

私たちは地域とのふれあいを大切に、  
大勢の仲間と力を合わせ、支え合い、新しい明日をつくっていきます。  
住みよい北海道をつくるために、連携の輪をもっと大きく広げていきたいと思ひます。

### 「キッズタウン」協力企業・団体(2016年)

- 釧路市** / 一般社団法人 釧路地方自動車整備振興会、一般社団法人 釧路薬剤師会、オムレツカフェ エレスト アロハ ALOHA、(株)釧路厚生社、(株)TB北海道 釧路支店、(株)トップオブ 釧路山花温泉 リーフ、(株)マルエイ六峰社、コーチャンフォーグループ (株)リアリアル、釧路菓子商組合、釧路ガス(株)、釧路市消防本部、釧路市水産加工振興センター 釧路市水産加工業協同組合、釧路信用金庫、釧路方面釧路警察署、釧路電気工事業協同組合、アベニュークシロ、立ち喰いそばマキ、鶴雅グループ Pan de Pan、日本郵便釧路中央郵便局、釧路西郵便局、丸善木材(株)、宮崎商店、(有)うちや美容室 Hair Salon UCHIYA、(有)カーサポートイン
- 苫小牧市** / 愛らんどベーカリー、王子サーモン(株)、(株)けーあいファーム、(株)コスモグラフィック、(株)金剛園、総合警備保障(株) 苫小牧支店、苫小牧海上保安署、苫小牧ガス(株)、札幌方面苫小牧警察署、苫小牧ケーブルテレビ、苫小牧市消防本部、苫小牧市立病院、苫小牧信用金庫、苫小牧地区自動車整備協同組合、苫小牧民報社、ふくし大作戦!!2016実行委員会、社会福祉協議会、北海道電力(株)、ヤマト運輸(株) 千歳主管支店、(株)住まいのウチイケ、(株)北海道銀行、苫小牧市民業協(株)、苫小牧市役所環境衛生部ゼロゴミ推進室、rinnacchi
- 帯広市** / asian healing Lom、あくりとかち、足寄動物化石博物館、(株)エイカンパニー、釧路方面帯広警察署、帯広市事務局、とかち広域消防局 帯広消防署、帯広市図書館、帯広信用金庫、一般社団法人 帯広地方自動車整備振興会、帯広の森はぐくむ、日本郵便帯広郵便局、(株)オカモト、(株)満寿屋商店、ジュー&ルイ、十勝バス(株)、(株)十勝毎日新聞社、(株)藤森商会、北海道看護協会 十勝支部、(株)北海道銀行、(株)北海道新聞社 帯広支社、北海道電力(株) 帯広支店、北海道薬剤師会 十勝支部、ヤマト運輸(株) 道東主管支店、六花亭製菓(株)、(株)帯広シティーケール
- 函館市** / 函館市食生活改善協議会、函館市環境部 函館の街をきれいにする市民運動協議会、北島製パン(株)、一般社団法人 函館薬剤師会、函館朝市協同組合連合会、函館税務署、函館市財務部、(株)函館新聞社、(株)北海道銀行 函館市内支店、キョーツー(株)、函館山ロープウェイ(株) FMいるか、(株)あさひや、総合警備保障(株)、NCV (株)ニューメディアセンター、函館市消防本部、函館市青年センター、ハコロドットコム(株)、函館空港ビルディング(株)、函館市保健福祉部健康増進課、(株)ルネサンス スポーツクラブ、函館市、函館技能士会、函館方面函館西警察署、(株)ニチイ学館 COCO塾ジュニア (株)ニチイ学館 函館支店、函館市青果物地方卸売市場活性化対策委員会、サンリフレ函館 レストラン ROKAN、公益社団法人 函館市シルバー人材センター、はこだてキッズショップ (キッズタウン実行委員会)
- 旭川市** / 旭川印章業組合、(株)三建設事務所、東芝ホクト電子(株)、旭川市子育て支援部母子保健課、(株)登屋総本店、一般社団法人 旭川薬剤師会、(株)日本旅行北海道、(株)日本広告社 旭川本社、トータルエステティックサロン Bochoumer (ボショメル)、(株)北海道銀行、旭川理容美容専門学校、旭川方面旭川中央警察署、旭川東警察署、旭川市消防本部、旭川駅立売商会(株)、(株)サキエ芸、旭川ガス(株)、(株)花建設(株)、(株)カナモト企業体、(株)至誠 まごころ館、(株)山城教材社、(株)北海道録音センター、(株)カムラ、一般社団法人 旭川地方自動車整備振興会、(株)道北アークス

「キッズタウン」は、職業体験を通じて仕事の楽しさや社会の仕組みを学んでもらい、まちの成り立ちを伝えることや、地元への郷土愛を育んでもらうことを目的に、自治体や教育委員会、地元企業などの協力のもと、道内5都市(釧路市、苫小牧市、帯広市、函館市、旭川市)で毎年開催している親子イベントです。子どもたちが仮想上のまち「キッズタウン」の企業や団体に自由就職し、さまざまな職業体験を行い、親は子どもたちの活躍を周辺で見守ります。体験できる職業は美容師、看護師、消防士、警察官、パティシエ、銀行員など多種多様。就業時間に応じて疑似通貨を給料として受け取り、キッズタウン内の店舗で買い物も楽しめます。

2010年にスタートして以来、これまでに累計1万人を超える子どもたちが参加しました。2016年も約1300の企業・団体と連携し、合計約2,400人の子どもたちのいきいきした活動をサポートしました。

### 「キッズタウン」を開催

### 社員による清掃活動

みんなのまちをキレイにしたい！  
札幌のシンボルである大通公園をキレイにしようとして2013年より当社社員が自主的に始めた清掃活動。「サタデーGOMIひろいフリーバー」と称し、今では多くの企業や団体が参加する取り組みになりました。2015年にはこの活動が評価され、「札幌市民憲章実践者表彰」を受賞しました。

また、札幌市清田区とは2010年より、まちの美化に向けた「アダプトプログラム」(\*)を締結。本社前の市道清掃を春から初秋まで毎月実施しています。

※アダプトプログラム/アダプトとは「養子縁組のこと。ここでは道路を養子に見立てて各団体が里親となり、定期的に清掃活動を行うこと。

### 雪かきボランティア

育てよう助け合いのころ  
本社のある札幌市清田区近隣では、当社社員と地域の大学生が連携し、高齢者や体が不自由な方のお宅やゴミステーション、消火栓まわりを除雪するボランティアを2009年から続けており、2017年からは札幌市豊平区の西岡地区でも実施しています。

また、異業種の企業と連携して三笠市や倶知安町の豪雪地を訪ね、高齢独居世帯の雪かきも実施しています。



地域の大学生と協働した雪かき

### 円山動物園との連携

動物園を教室に、いのちに育まれた授業を  
2008年に札幌市と締結した「札幌市円山動物園を舞台とした環境協働事業に関する協定」や、「さつぽろまちづくりパートナー協定」に基づき、2008年、休憩しながら環境の大切さを感じてもらえるスペースとして園内に「ネイチャーカフェ・アース」を開設・運営してきたほか、2010年には「猛禽類野生復帰施設」建設費用の一部を寄付しました。2013年には、環境問題や食育へのきっかけになってほしいと、同園で飼育されている絶滅危惧種4種(ホッキョクグマ、マレーバク、オオウシカバ)をイラストで描いた「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」を地域限定で発売。売り上げの一部を同園に毎年寄付しています。



ネイチャーカフェ・アース



「ミニッツメイドQoo どうぶつデザイン」

### 旭山動物園との連携

「生態系の循環」を感じてほしい  
2008年に旭川市と締結した「魅力あるまちづくりに関する基本協定」に基づき、園内に休憩スペース「やすらぎの森」を2008年に寄贈。その隣に地元企業や学校と協働で循環型農園を開設して、2010年より「つながる輪」のち」と名づけた環境教育プログラムを行っています。春の農園開きでは、地元の高校生や協力企業とともに農作物を作付けして有機野菜を栽培。秋には収穫祭を行い、採れた野菜は自分たちや動物たちが食べることで生態系の循環を学びます。また、ホタルが生息できる環境づくりを目指して、幼虫の放流も行っています。

このほか、2007年に創設された「あさひやま」も「夢」基金」の支援を目的とした自動販売機を旭川市内に設置し、売り上げの一部を毎年、同基金へ寄付しています。



体験型環境教育プログラム「つながる輪」のち」

### 社員の声 VOICE

魅力あるまちづくりを  
応援しています



営業統括本部 第二本部  
法人営業部 法人第一課長  
鈴木 聖平

私が勤務していた旭川販売課では、2008年に旭山動物園に休憩スペース「やすらぎの森」を寄贈し、その隣の広場に2010年より「循環型農園」を作りました。そこでは旭川市内の高校生や幼稚園児が「いのち」のつながりを学習する場として毎年農作業を行っており、活動に賛同していただいた地元企業や団体にもボランティアとして協力いただいております。今後も旭川市のシンボルである旭山動物園を通じて地元市民が交流し合える機会を創造し魅力あるまちづくりを応援してまいります。



農園での作業の様子





YOSAKOIソーラン祭り  
における給水サポート



第68回  
さっぽろ雪まつり  
応援デザイン缶

第26回  
YOSAKOIソーラン祭り  
応援デザイン缶

地域の元気を応援  
**全道のお祭りを  
サポート**  
お祭りやイベントは地域の活性化や観光振興につながる重要な機会。当社は全道各地で行われるイベントを積極的にサポートしています。  
「さっぽろ雪まつり」や「YOSAKOIソーラン祭り」ではオリジナルの応援デザイン缶を毎年発売してイベントをPR。売り上げの一部を継続的に運営組織に寄付しています。さらに、YOSAKOIソーラン祭りでは、「コカ・コーラ札幌国際大学」として学生と協働し、お祭りに毎年チーム参加しています。ほかにも、旭川市の「旭川冬まつり」や「北の恵み食べマルシェ」、函館市の「はこだてグルメサークラス」、帯広市の「おびひろ水まつり」、小樽市の「おたる潮まつり」、札幌市清田区の「清田ふれあい区民祭り」や「きよたマルシェ」など、全道各地のイベントへ参加・応援し、地域の方々とふれあいを深めています。



「B・B」と「Qoo」の食育体験

ファンと一緒に心おどる感動を  
**スポーツシーンの  
盛り上げ**  
スポーツを通じて北海道を盛り上げるため、地元のプロスポーツチーム「北海道日本ハムファイターズ」「北海道コンサドーレ札幌」「レバンガ北海道」を応援しています。また、当社のマスコット「Qoo」と球団マスコット「B・B」が道内の幼稚園や保育園を訪問し、食育することの大切さを学ぶ「ちゃんと食べよう体操」を通じた、親子への食育活動に2007年より取り組んでいます。ちなみに、「Qoo」は2010年に札幌市から食育特別大使として任命されています。さらに、2020年の東京オリンピックに向けて取り組みとして2016年より「JOCオリンピック支援自動販売機」を展開し、オリンピックを目指すアスリートを支援しています。

子どもたちの夢を大切に  
**全道のクリスマス  
イベントを応援**  
サンタの格好で楽しくウオーキングし、参加費の一部で病児と闘う子どもたちへクリスマスプレゼントを贈るイベント「サンタラン」の全道各地での運営に協力。2016年、札幌では200名の参加者とともにチャリティ活動を盛り上げました。また、日本で唯一のサンタランド「広尾町とタイアップ。サンタランドのイルミネーション点灯式への参加や、サンタからクリスマスカードが届く「サンタメール」事業にも協力しています。



福祉施設へのプレゼントを毎年継続！  
**コカ・コーラで  
クリスマスを盛り上げる**  
現在のサンタクロースのイメージは、コカ・コーラが制作した広告によって世界的に定着していったと言われています。このような、コカ・コーラとクリスマスの親和性から、1968年より毎年、クリスマスシリーズに全道の福祉施設などへ自社製品のプレゼントを継続実施しています。また、2000年より札幌市電「コカ・コーラクリスマス電車」を期間限定運行。札幌の冬の賑わいづくりを応援しています。

パートナーの  
VOICE



広尾町  
総務課係長  
沖田 一美さん

協働で盛り上げる、  
「サンタのまち」広尾町

広尾町は昭和59年11月にノルウェー・オスロ市から国外唯一のサンタランドとして認定を受け「サンタのまち」としてまちづくりを進めてきました。

そのような中、30周年の節目を迎えた2014年、御社と「サンタクロースの夢を育むまちづくりパートナー協定」を締結。これを機にサンタメール事業にて児童養護施設にクリスマスプレゼントを届ける「子どもの夢を届けるプロジェクト」や、広尾町イメージキャラクターの「さーちゃん」デザインの電光掲示板付き災害対応型自動販売機の設置など多岐にわたり、まちづくりに協力をいただいております。

今後もサンタクロースが緑で結ばれた良きパートナーとして連携を強化し、特色のあるまちづくりを推進してまいります。



さっぽろ雪まつり  
会場



札幌市電「コカ・コーラクリスマス電車」



「コカ・コーラ札幌国際大学」  
YOSAKOIソーランチーム

3  
**連携の輪を  
つなぐ**

大切にしたい一人ひとりの想い  
**自動販売機を活用した支援活動**

当社では自動販売機の設置契約者さまや生活者の皆さまが、自動販売機による飲料購入を通じて、社会貢献活動を支援できる寄付型自動販売機の取り組みを展開しています。  
乳がんの早期発見・早期治療の大切さを訴えるピンクリボン活動を支援するため、公益財団法人北海道対がん協会と協働で「ピンクリボン活動支援自動販売機」を全道に約150台展開し、2010年から売り上げの一部を同協会に寄付しています。2016年には寄付金の一部を活用して



ピンクリボン活動支援自動販売機  
寄付金贈呈式

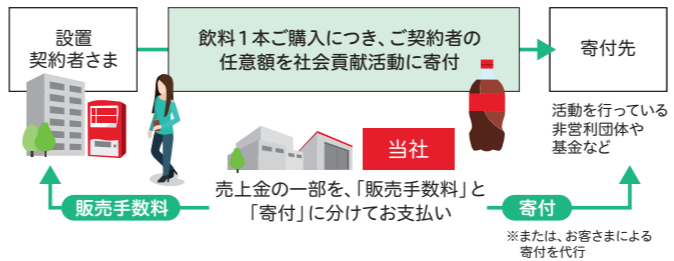


ピンクリボン  
活動支援自動販売機

「コカ・コーラ工場見学×無料乳がん健診バスツアー」を開催しました。  
このほか、病氣と闘う子どもたちに自然体験を楽しんでもらう「そらぶちキッズキャンプ」(滝川市)への支援や、「スケート競技振興(釧路市)への活用、歴史的建造物や産業遺産の保全に取り組む「小樽ファンが支えるふるさとまちづくり資金基金(小樽市)」への支援、道南では北海道新幹線開業と同時に開業した「道南いさりび鉄道地域応援隊」への支援など、今後も自動販売機を通じて社会貢献活動を継続していきます。

寄付型自動販売機の支援イメージ

設置契約者さまや生活者の皆さまが自動販売機による飲料購入を通じて社会貢献活動を支援できる取り組みです。





# 環境負荷低減への取り組み

北海道の豊かな自然環境を将来にわたって維持し、次世代に引き継いでいくことは私たちに課せられた使命です。事業活動のあらゆる場面で、環境負荷低減の取り組みを進めています。



環境に対する基本的な考え方

## 環境理念

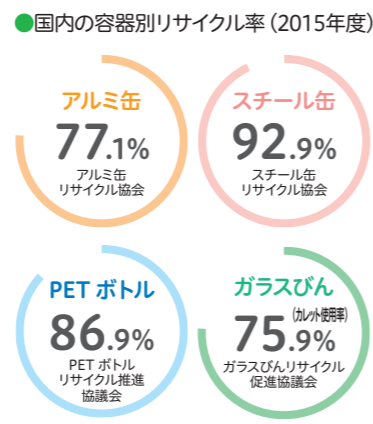
北海道コカ・コーラグループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

## 環境行動指針

- 1、省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
- 2、事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
- 3、環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組みます。
- 4、地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
- 5、環境に配慮した物品の購入を促進します。
- 6、環境関連法規制、「KORE」(コカ・コーラシステムが定める基準)及びその他の要求事項を遵守します。

## 容器リサイクル

空容器の回収とリサイクルに力を入れています。回収した容器は、自社または専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別、再度資源として有効活用されます。



## リサイクルペット

コカ・コーラシステムでは、回収したPETボトルを再びPETボトルに再生する、ボトルtoボトル(BtoB)の導入を進めています。2020年までに、全てのPETボトルでリサイクルPETまたは植物由来原料の採用を目指しています。

## 軽量ボトル

省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。2014年にはつぶしやすしい軽量2ℓPETボトル「ペコらくボトル」をいち早く採用。「容器包装簡素化大賞2015」の特別賞を受賞しています。

## 地球温暖化の防止に向けて

## 夏季・冬季節電

7月1日から9月30日の期間中、9～20時までの時間帯、約5万台の自動販売機を対象に、6つのグループに分けて冷却運転を輪番で停止することにより、最大使用電力と比べ約15%の消費電力削減を実現しています。

また、冬期も冷却運転の輪番停止を通じて、自主的な電力削減に取り組みました。



## ピークシフト自販機

「ピークシフト自販機」とは、電力使用がピークとなる時間帯に最大16時間冷却運転を停止しても、冷たい製品を販売できる超省エネ型の自動販売機です。真空断熱材の採用により保冷機能を高めることで、冷却のための電力使用を日中から夜間にシフト。電力に余裕のある夜間に冷却して、日中の消費電力を95% (※)削減します。また、冬に一部製品を加温する際も、使用するヒーターの消費電力が20% (※)少なくなり、冷却に使用する消費電力とあわせても68% (※)の電力削減ができます。

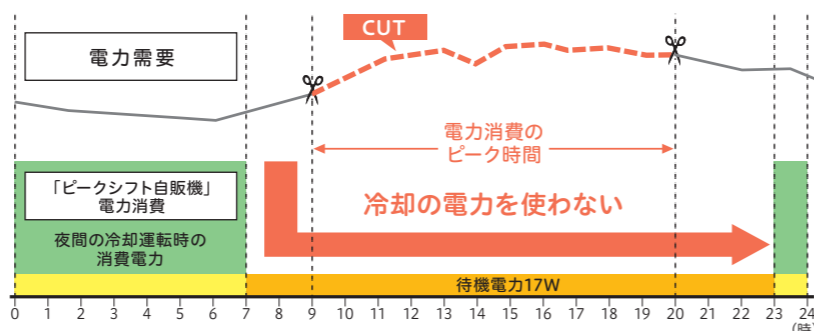
この「ピークシフト自販機」は、2013年度の「省エネ大賞」で最高賞である経済産業大臣賞を、「第10回エコプロダクツ大賞」で推進協議会特別賞(節電優秀賞)を受賞しました。当社は、2016年12月末現在で約8,000台展開し、今後も推進していきます。

※2012年度製造の同型機平均値比 (日本コカ・コーラ調べ)



「ピークシフト自販機」

●時間帯別電力需要の推移と「ピークシフト自販機」の電力消費イメージ図



ピーク時間帯に加えその前後において冷却運転を停止し消費電力を削減。冷却停止時間：朝7時から夜23時  
出典：東京電力HPより2012年6月1日の電力使用実績

## ISO14001 認証取得

2010年2月、本社敷地内に所在する当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を取得しました。

その後も組織として決定した環境行動指針のもとで、事業活動・製品およびサービスが環境に与える影響を引き続き把握・評価・是正し、継続的に改善していくことにより、省資源・省エネルギーをはじめとする環境負荷の低減に努めています。

また、廃棄物の削減・再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識向上にも積極的に取り組んでいます。



ISO14001登録証

循環型社会の実現のために

## ゼロ・エミッション

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を「掃し、すべてをリサイクルする「ゼロ・エミッション」活動に取り組み、2001年から目標を達成しています。



●ゼロ・エミッションの内容

リサイクル前	リサイクル後	工場廃棄物排出量 (単位：t)		
		2014年	2015年	2016年
コーヒーかす・茶かす	肥料	3,477	4,282	5,570
紙類	再生紙、ダンボール	192	174	179
プラスチック類	再生プラスチック、固形燃料	174	164	149
金属類	再生金属	58	76	85
汚泥	セメント原料、肥料	24	50	43
ガラス類	ガラスびん	0	0	0
一般廃棄物	発電、暖房燃料	9	7	12
合計		3,934	4,753	6,038





# 環境会計について

「環境会計」とは、企業が環境保全に投じたコストとその活動により得られた効果を把握するための会計手法です。より効率的かつ効果的な推進を目指しています。



環境保全活動の  
効果を見える化

## 環境保全コスト

2016年度は、札幌工場で照明のLED化や節水設備の更新、空調の効率化等、省エネ設備の投資を行いました。新事業所においても、太陽光発電システムや風力発電システム、LED照明等の設備を積極的に導入しました。  
また、廃棄物処理委託業者の視察や事業所・グループ会社を対象に廃棄物管理業務点検を実施し、廃棄物の適正処理に向けた取り組みを継続しています。

## マテリアル バランス

マテリアルバランス(物質収支)とは、事業活動において必要とされる資源・エネルギーの量(インプット)と、それに伴う廃棄・排出量(アウトプット)を表したものです。当社では生産活動における環境負荷を把握した上で、これらの削減に取り組んでいます。

## 環境効果

「ピークシフト自販機」などの省エネ自動販売機の積極的な投入により、消費電力の削減を進めることでCO<sub>2</sub>の削減に努めました。また、資源の循環利用の鍵となる再資源化の取り組みとして、廃棄自動販売機や空容器の回収・リサイクルを積極的に推進し、廃棄物の削減、環境負荷低減に積極的に取り組んでいきます。

### ●環境保全効果

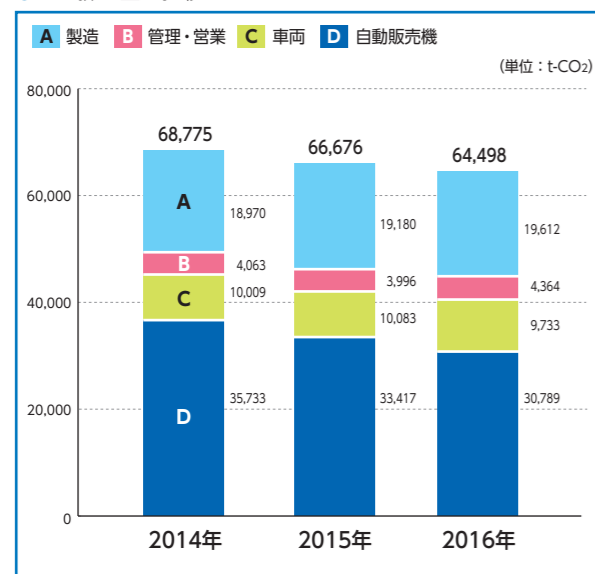
項目	単位	2014年		2015年		2016年	
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率		
総エネルギー使用量(熱量換算)	GJ	1,468,362	1,419,839	1,367,717	-3.7%		
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	68,775	66,676	64,498	-3.3%		
NOx排出量	燃焼設備	t	7.2	7.2	7.7	6.4%	
	車両	t	63.9	62.9	61.1	-2.9%	
水使用量	m <sup>3</sup>	1,246,124	1,254,841	1,282,700	2.2%		

### ●環境保全対策に伴う経済効果

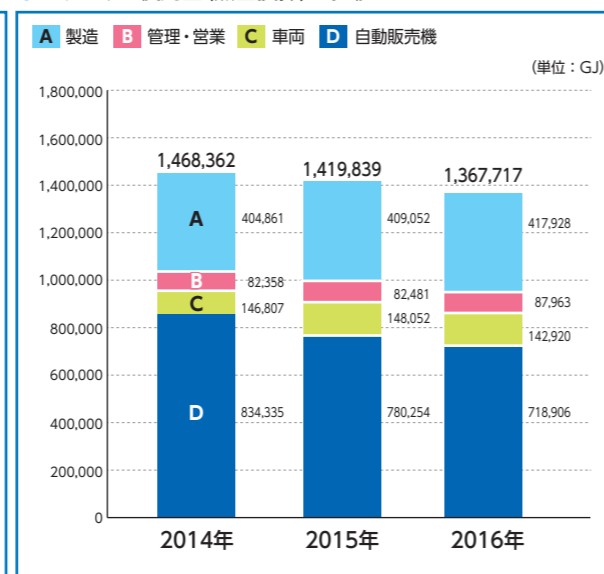
(単位:千円)

内容	2014年	2015年	2016年
リサイクルにより得られた有価物の売却額 (自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等)	51,287	43,512	25,715

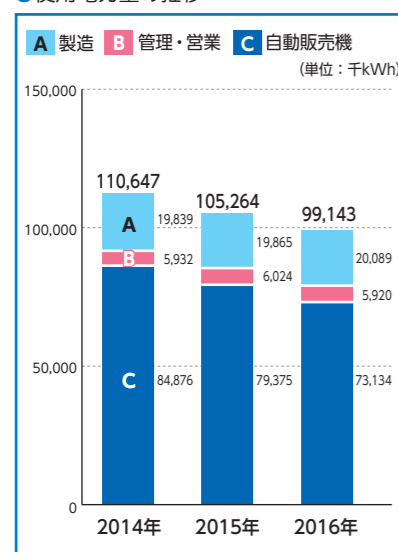
### ●CO<sub>2</sub>排出量の推移



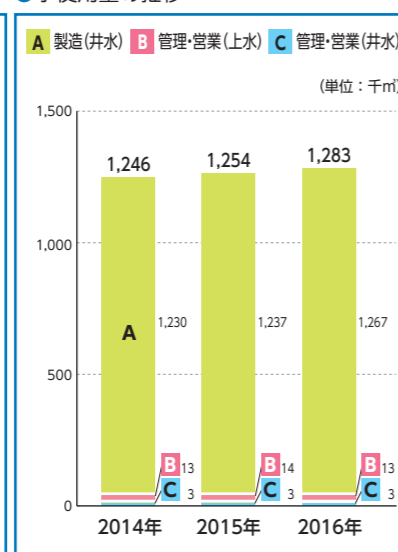
### ●エネルギー使用量(熱量換算)の推移



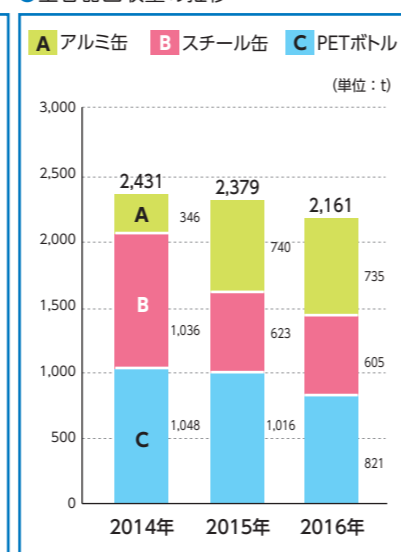
### ●使用電力量の推移



### ●水使用量の推移



### ●空容器回収量の推移



#### ●集計方法について

- CO<sub>2</sub>は電力・燃料より、NOx・SOxは燃料より算出しています。(SOxは排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)
- 燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
- 電力由来のCO<sub>2</sub>排出量は、電気事業者連合会のCO<sub>2</sub>排出原単位(2004年度)より算出しています。
- NOx排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。

- SOx排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
- 管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。
- 車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフトおよび当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
- 製造(井水)は製造量と連動しています。

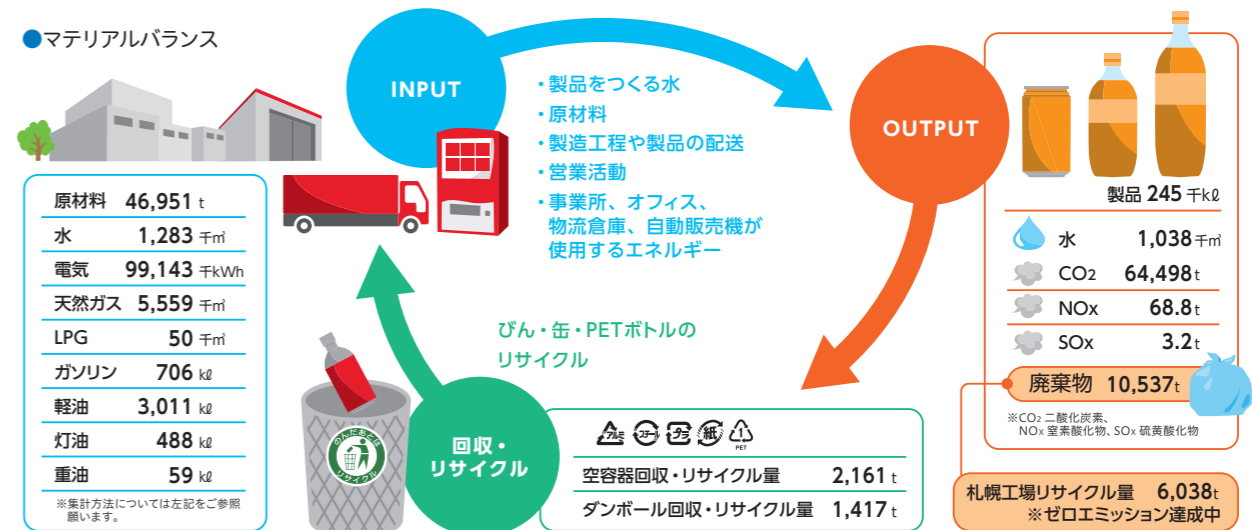
### ●環境保全コスト

(単位:千円)

項目	主な取り組みの内容	2015年		2016年	
		投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	73,483	122,579	151,013	104,001
(1) 公害防止コスト	工場排水処理 他	38,861	57,405	74,536	30,294
(2) 地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	25,830	14,116	49,326	15,734
	自動販売機のフロン回収・破壊	265	15,210	245	14,795
	低公害車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)※	0	374	0	4
(3) 資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	8,527	32,922	26,906	41,338
	自動販売機の処理・リサイクル	0	2,552	0	1,836
	計	0	102,274	0	91,866
2.上・下流コスト	空容器の回収・リサイクル	0	26,555	0	24,137
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	40,194	0	35,983
	再商品化委託費 他	0	35,525	0	31,746
	計	0	34,490	0	32,030
3.管理活動コスト	環境負荷の測定	0	21,823	0	21,805
	EMS構築・運用、環境コミュニケーション	0	12,667	0	10,225
	計	0	16,068	0	14,047
4.社会活動コスト	業界団体活動、環境支援活動 他	0	15,548	0	13,527
	本社構内緑化保守	0	520	0	520
	合計	73,483	275,411	151,013	241,944

※各年度にハイブリッド車を導入したリース費用

### ●マテリアルバランス



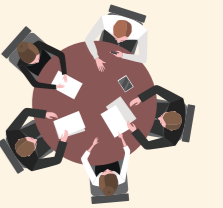


# よりよい職場づくり

誰もが働きやすく、能力を発揮しやすい職場をつくりたい。  
災害時の安全対策はもちろん、さまざまなリスクにも強くありたい。  
万が一に備えた体制整備も、企業としての責任だと考えています。

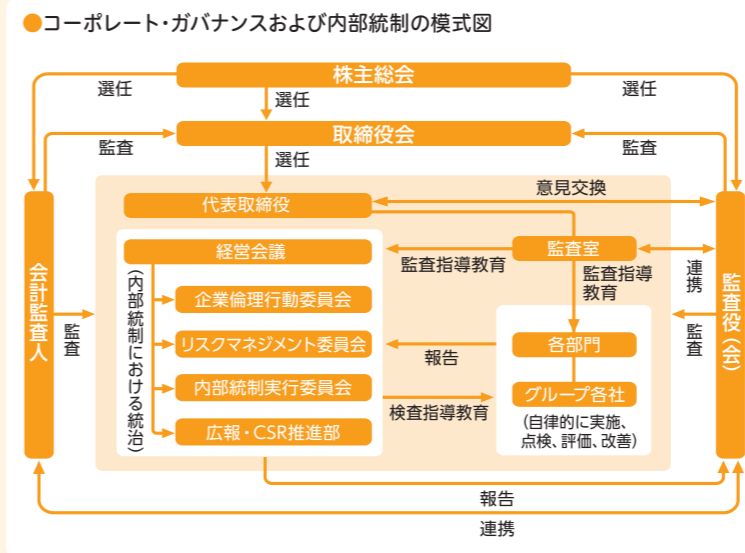


## マネジメント 体制について



## コーポレート・ガバナンス

当社では、多様なステークホルダー（利害関係者）と良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務遂行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的なコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

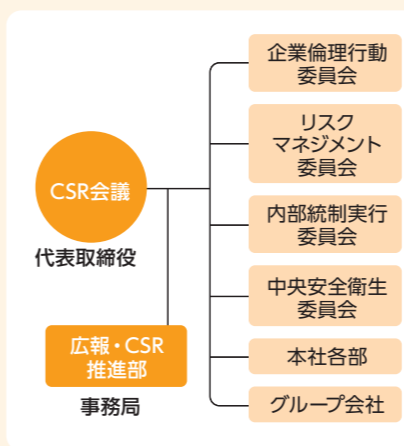


## 内部統制システム

内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得を目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規程」を、また、「金融商品取引法」に対応するための「内部統制の基本方針書」を策定し、財務報告に関わる内部統制の適切な整備・運用および、その評価・報告を継続して行うよう努めています。

## CSR会議

CSR経営を推進する上での現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ各社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体として組織的なCSR活動を展開しています。



## 万が一の リスクに備えて



## 危機管理体制の強化

当社では「リスクマネジメント方針」を定めており、天災や製品事故等が発生した際は、リスクマネジメント委員会が主導して、ただちに部門横断的に対応する体制を構築しています。また、コカ・コーラシステムがリスクマネジメントおよび危機管理プログラムとして定めているIMCR (Incident Management & Crisis Resolution) を運用。全社員に浸透するよう、IMCRTトレーニングを年に2回、開催しています。

## 避難訓練

全事業所で、毎年避難訓練を実施しており、火災発生に伴う初期消火活動と消防への通報、避難指示のアナウンスなどの確認を行っています。また、本社では消防署の立ち会いのもと、グループ会社を含めた総合防災訓練を行っており、大規模地震を想定して、自衛消防隊の指揮・命令系統、被害者救助の救済体制などを確認しています。



## 営業車両に 防災グッズ

災害の発生時には、社員一人ひとりの安全をいち早く確認するために、携帯電話への一斉配信による安全確認を行います。また、災害時に不足が予測される物品を各事業所に備蓄し、社員の安全を確保。配送トラックや営業車両などにも非常食や折りたたみ式スコップ、防寒用アルミシート、携帯トイレ、携帯電話用充電機などの防災用品を配備しています。



## 働きやすい職場 を目指して

社員が働きながら高度な専門能力を習得していくことを目的に、2011年から「グローバル人材育成制度」をスタート。「MBAコース」や「語学コース」に加えて、「海外研修コース」も開設しました。また、「女性社員のために活躍支援ミーティング」を開催しているほか、通信教育費の一部を会社で負担し、自己啓発や多様な資格の取得を奨励しています。

## ワーク・ライフ・ バランス

「育児・介護休業法」の定めに基づいた育児休業制度をはじめ、介護休業制度、子どもの看護休暇や所定労働時間を最大3時間短縮する育児短時間勤務制度を整備。さらに、所定外労働時間の免除や育児のための時差出勤制度を設け、仕事と家庭の両立を全面的に支援しています。



## コラム COLUMN

### 札幌東事業所が 2017年1月に竣工

業務効率の向上を基本コンセプトに、新たな営業拠点を札幌市東区に開設しました。コミュニケーション向上と生産性の向上の為、ワンフロア設計となっており、社員にとって働きやすい事業所となっています。また、環境に配慮した省エネ設備の積極的な導入、BCPの視点を取り入れた設備を備えることで、より地域に根差した事業所を目指しています。



札幌新事業所

## 社員の声 VOICE

### 子育ての経験を仕事に 活かせるよう頑張りたい



営業統括本部 第二本部  
カスタマーセンター  
大場 真梨

約一年の産休・育休後に復職し、育児短時間勤務制度を利用して勤務しています。職場復帰を通じて感じたのは「これからはもっと働き続けたい」ということ。通常よりも早い時間に退社することで、子どもとの時間を大切にしながら、ワーク・ライフ・バランスを意識して働いています。育児による時間の制約もありますが、周りの皆さまに支えられて乗り越えており、日々感謝しております。子育ての経験を今後のキャリアに活かすことで恩返しをしていきたいです。

これからも本制度の活用をはじめ、家庭と仕事の両方を大切にしながら働く方が増えてほしいと思います。私自身が支える側として会社の次の世代へ貢献していきたいと思っています。





# 厳格な品質管理システム

飲料メーカーにとって、品質管理は最重要課題です。  
コカ・コーラシステムでは、世界共通のマネジメントシステムで  
原材料の調達から生産、輸送、販売までを徹底管理しています。

グローバル基準での  
マネジメント  
システム

マネジメントシステム  
「KORE」

ボトラー社を含むコカ・コーラシステムでは、世界共通で「KORE(コア)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。



# KORE

## Coca-Cola (KO\*) Operating Requirements

コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント

※「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラカンパニーの略称です。  
※「KORE」にはISO9001(品質マネジメントシステム)、FSSC22000(食品安全マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の基準が含まれています。

国際規格の取得と  
鮮度管理の仕組み



### ISO9001 認証取得

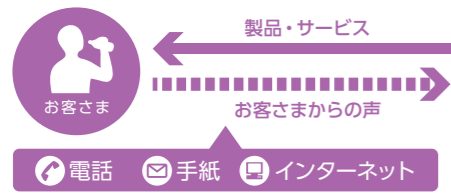
2007年、コカ・コーラシステム全体(製造・販売・管理部門)で品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」を取得。システム全体で品質向上に取り組んでいます。

### FSSC22000 認証取得

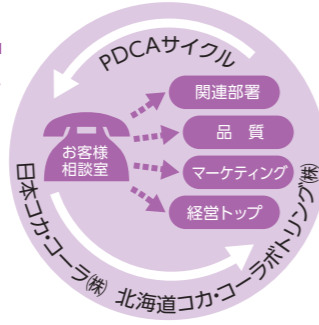
札幌工場ではコカ・コーラシステムが世界共通で導入している独自のマネジメントシステム「KORE」のつとめて製品の安全性を追求し、品質の向上を図っています。2010年には食品安全マネジメントシステムの国際規格である「FSSC22000」も取得。複数の検査士による味覚検査をはじめ、製造設備の徹底したメンテナンスの実施、使用する水質の安全性の保証に努めています。

### 賞味期限切れ防止

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の防止に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、商品を充填する営業担当者が適正本数の充填と補充時のチェック活動を行っています。  
また、工場倉庫出荷から自動販売機へ充填されるまでの管理や在庫の適正化、HOT販売における温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。



製品に関するお問い合わせは  
日本コカ・コーラ(株) お客様相談室  
**0120-308509** 土日祝日を除く  
9:30~17:00  
URL <http://www.cocacola.co.jp>



**お客さま対応の体制について**  
当社は、お客さまから寄せられるご指摘・ご提案・お問い合わせなどの声を大切にしています。お客さま対応の体制について、顧客満足に関する国際規格「ISO10002」に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。

### お客さま対応の基本理念

私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。お客さまとのコミュニケーションを大切に、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみならず「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

### お客さま対応の基本方針

- 1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- 2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- 3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- 4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

### ●見学できる日時 月～金曜 (10:00～11:30、13:30～16:30)

※祝日も見学可能です(一部休みあり)。  
※7～9月は土曜も見学可能です。  
※製造ラインが稼働していない場合は、映像でのご案内となります。

- 所要時間 約60分  
※ご要望に応じて調整できます。
- ご案内人数 2～140名



### 工場見学ののご案内

札幌市清田区にある札幌工場では随時、工場見学を受け付けています。簡単なガイドランスのあと、徹底した衛生管理の製造ラインを見学。巨大な立体自動倉庫へもご案内します。参加費は無料で、見学終了後には製品の試飲も楽しめます。

☎ **011-888-2100**  
(受付時間/月～金曜9:00～17:30)  
<https://factory.hokkaido.ccbc.jp>

お申し込み

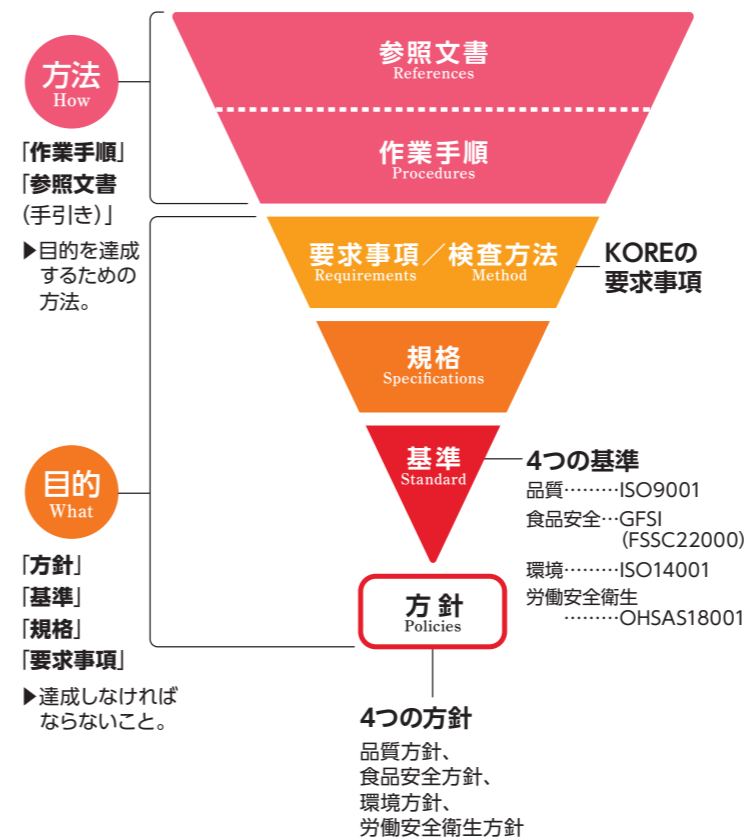
あらかじめお申し込みが必要です。見学希望日の前日までに電話または専用WEBサイトからご予約ください。  
※定員になり次第、受付終了となりますのでご了承ください。

「KORE」とは、KO(※) Operating Requirements(コカ・コーラオペレーティングリクワイアメント)の略称。原材料の調達から製造・物流(輸送)・販売を経てお客さまに製品をお届けするまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に関する基準を網羅した内容です。国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課しており、当社もこれを用いています。

### 構造と特徴

「KORE」は、「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」の4つの側面をカバーするシステムです。それぞれの「方針」「基準」「規格」「要求事項」「作業手順/参照文書」の5つの階層で構成されています。「方針」から「基準」「規格」「要求事項」までの4つの階層は達成すべき目的を示しています。「作業手順/参照文書」はその目的に到達するための方法を示しています。

### ●「KORE」の構造





# 企業プロフィール

北海道コカ・コーラボトリングの事業範囲は、北海道全域。地域の健全な発展がなければ、私たちの事業も成り立ちません。道民の皆さんと支え合いながら、社会的責任を果たしていきます。



## 経営理念

私たちは、知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献します。

## 経営指針

- 私たちは、
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
  2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
  3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくりまします。

## 社員行動規準

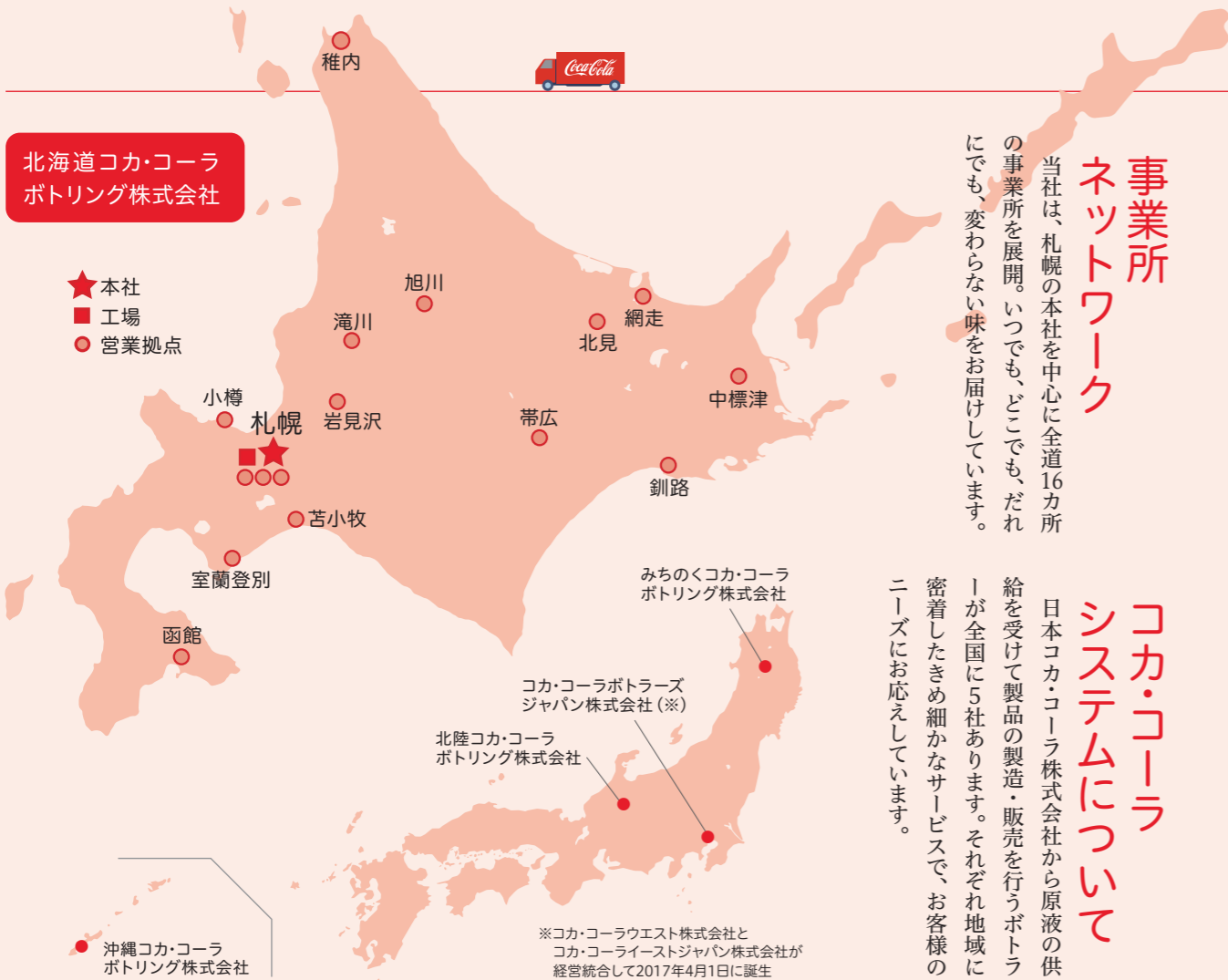
- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

## 事業所 ネットワーク

当社は、札幌の本社を中心に全道16カ所の事業所を展開。いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けしています。

## コカ・コーラ システムについて

日本コカ・コーラ株式会社から原液の供給を受けて製品の製造・販売を行うボトラーが全国に5社あります。それぞれ地域に密着したきめ細かなサービスで、お客様のニーズにお応えしています。



## トピックス TOPICS

### 北海道の生活者の皆さまに密着したキャンペーンを実施

当社では日頃、ご愛顧いただいている道民の皆さまに感謝の気持ちを込めて、地元で密着したキャンペーンを実施しております。キャンペーン実施の際は、随時、当社WEBサイトや、店頭などで紹介いたします。



※画像は過去のキャンペーン例です。

## 会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役社長 佐々木康行
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL (011) 888-2001 (代表)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	438名(グループ1,282名)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(16)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

## グループ会社の概要

- 北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社  
清涼飲料水及び飲料水用容器の製造  
各種自動販売機の修理、設置及び撤去
- 北海道ベンディング株式会社  
自動販売機による飲料、食品等の販売
- 幸楽輸送株式会社  
コカ・コーラ社製品の工場・営業拠点間の輸送、  
一般貨物輸送、倉庫業
- 北海道サービス株式会社  
一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、  
書籍等の販売、事務機器等のリース、清掃業、  
損害保険代理業

## 企業集団の財産および損益の状況の推移

(単位: 百万円)

区分	第53期 (2014年)	第54期 (2015年)	第55期 (2016年)
売上高	59,640	58,094	56,620
経常利益	1,116	1,030	2,441
親会社株主に帰属する 当期純利益	609	516	1,587



認証

## 北のブランド「金賞」 「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザイン

優れた技術やこだわり、市場における製品・技術の高い評価など、一定の基準にそって審査を行い、優れた道産品を札幌商工会議所が認証する「北のブランド」制度。

当社の天然水「い・ろ・は・す」をはじめ、道民の嗜好を深く追求した果汁飲料「ミニッツメイド」、道産牛乳を100%使用した「ジョージア ミルクコーヒー」などの商品が「北のブランド」に選ばれています。

なかでも「ジョージア サントスプレミアム」北海道限定デザインは、北のブランドとして5年以上継続して認証され、既に市場からの高い評価を得ている、地域を代表する製品として2016年より「金賞」を受賞しています。

受賞理由は、砂糖や生クリームなど北海道産原料を使用していることに加え、売上金の一部を北海道の水辺の環境保全に活用していること。2008年から始めた寄付は、「北海道e-水プロジェクト」として定着し、2016年で累計1億円を突破しました。



「ジョージア サントスプレミアム」  
北海道限定デザイン

## 北海道コカ・コーラボトリングCSRレポート2017 第三者意見



根岸 淳二郎  
北海道大学大学院  
地球環境科学研究院・准教授

水資源の保全や課題解決を学ぶ学生が初めに読む教科書は何かと考えた。恐らく、森林や世界の水循環というキーワードが入っている。少なくとも、

自分はそのように学んだ記憶がある。このCSRレポートを見たとき思った。次に教えるときの課題は、なぜ飲料メーカーがこの内容でレポートを作るのかをプレゼンせよ、ではどうかと。それほど、紹介されている活動は多様であり、社会と水資源の関わり方を理解する上で非常に重要な示唆に富んでいる。

人間は、見た・触れたものが記憶に残ることで、その対象物に対する付き合い方を心の中で整理する。水資源についても、見る・触れることを通じてその大切さや脆さを私たちは理解する。この意味で、水資源に対する認知度(リテラシー)を向上させる場や人が持続的に提供されないと、社会の水資源に対する付き合い方を変えることは難しい。水の流れは直接見えない地下水に代表されるように、とてもわかりにくい。水資源を製品として人々に供給し、

シンガポール国立大学文理学部博士課程修了。土木研究所などを経て2011年より現職。専門は、河川生態学・生態系管理学。自然環境の仕組みの科学的理解に基づき、各種委員会活動と環境教育活動に広く関わっている。

そのビジネス基盤を山からの水の恵みに依存する北海道コカ・コーラボトリングは、このリテラシーを向上させる社会的な使命を必然的に与えられている。

実施されているCSR活動は多岐にわたる。数ある活動を一言であらわすことは難しいが、あえて切り口を揃えて見るならば、その共通点は「地域」と「連携」ではないだろうか。自治体、企業、団体など、地域の多様なステークホルダーとの連携あつてのCSR活動である。このようなことを包括的に学びきっかけを与えるのが本レポートである。

このようなCSR活動に共感して、私も微力ながら「山のがっこう」などに関わらせていただいた。今後必要となるのは、これらの活動が与える社会へのインパクトを適正に評価することであろう。水は非常にゆっくりと自然界を廻るので、一部の評価には50年以上先を見据えた活動とその成果が将来的に用いられることになる。ダイナミックに動く社会情勢や自然環境の中でどっしりとブレずに、活動の効果検証を視野にいれ、できるかぎり効果的な最善策を持って実施していただきたい。そうすれば、将来世代は、間違いなく、今の活動に対して「いいね!」という評価をくれると確信する。



## 外部からの評価

当社が継続しているCSRの取り組みに対し、社外からうれしい評価をいただきました。これらを励みに今後も、地域の課題と向き合いながら、地道な活動を推進してまいります。

受賞

### 平成28年度 北海道社会貢献賞 (防災功労者)

北海道は道民の防災に関する意識を高めることを目的に、北海道社会貢献賞(防災功労者)を2015年に創設。多年にわたり防災対策に特に功労があった団体に対し、その功績をたたえる表彰を始めました。

2回目となる2016年の表彰では当社が選出され、同年12月、北海道庁で行われた表彰式にて、高橋はるみ北海道知事より表彰状を授与されました。これは北海道に生産拠点や物流網を構える当社の強みを生かした災害時の支援活動と、全道の防災訓練や防災啓発イベントへの積極的な参加など日ごろからの地域防災の取り組みが評価されたものです。



#### 受賞理由

- 昨年8月の台風災害時における災害地域への飲料水輸送や災害対応型自動販売機のフリーバンドによる飲料水の提供
- 災害対応型自動販売機の電光掲示板を活用した、災害情報の提供
- 各種防災訓練、防災啓発イベントへの参加
- 道路異常等を発見した際、迅速に通報を行う協定を北海道開発局の全開発建設部と締結

受賞

### 第8回さっぽろ環境賞「札幌市長賞」

札幌市は2009年、世界に誇れる環境都市「環境首都・札幌」の推進に資することを目的に、札幌の環境保全に貢献する個人や企業などを顕彰する「札幌環境賞」を創設しました。第8回となる2016年は、企業部門の最高賞である「札幌市長賞」に当社が選ばれました。

表彰式は2017年1月、札幌市役所で行われ、秋元克広札幌市長より表彰状を授与されました。この受賞は、地下水を事業活動に使用する企業の社会的責任として当社札幌工場の水源地である白旗山の森づくりを通じて、次世代を担う子どもたちと環境教育や植樹など、地下水涵養に積極的に取り組んでいることが評価されたものです。



#### 受賞理由

- 白旗山都市環境林における森づくり
- 地下水涵養への積極的な貢献
- 子どもたちへの環境教育と植樹、産学官民が連携した取り組み等の継続実施
- 水資源保護活動に関して、社員教育を通じた水源涵養の重要性を企業内文化として継承





## [ ご意見・ご感想 ]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただきますため、本レポートをお読みいただいた皆さまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

## 作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
広報・CSR推進部  
〒004-8588  
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
TEL(011)888-2091

ホームページアドレス  
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

## 【CSRレポート バックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2014



CSRレポート2015



CSRレポート2016



## 北海道コカ・コーラボトリング株式会社

〈コカ・コーラ指定会社〉  
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号  
TEL(011)888-2091 (広報・CSR推進部)

COCA-COLA、コカ・コーラ、COCA-COLA PLUS、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、いろはす、紅茶花伝、MINUTE MAID、ミニッツメイド、Qoo、ターは The Coca-Cola Company の商標です。

2017年4月発行 / 次回は2018年4月の発行予定です。

